



令和2年(2020年)第30週 2020年7月20日(月)~2020年7月26日(日)

熊本市 感染症発生動向調査 速報



夏に流行する子どものかぜには手足口病、咽頭結膜熱(プール熱)、ヘルパンギーナなどがありますが、今週はヘルパンギーナが急激に増加しており、注意が必要です。

●ヘルパンギーナについて

多くはコクサッキーウイルスやエコーウイルスなどのエンテロウイルスの感染によって、口の中の粘膜に小さな水ぶくれ(水疱)ができる感染症です。4歳以下の感染がほとんどで、1歳が1番多い傾向にあります。

◆どんな病気?

- ・**症状**……突然の発熱(38~39℃)に続いて、のどが赤く腫れて痛み、口の中の粘膜に直径1~2mmほどの小さな水疱ができます。水疱が破れて浅い潰瘍になると痛みを伴います。
- ・**潜伏期間**…2~4日程度
- ・**感染経路**…感染者のくしゃみのしぶきや鼻水、水疱、便の中に含まれるウイルスが、手などを介して口や鼻の中に運ばれることによって感染します。症状がなくなったあとも、2~4週間は便の中にウイルスが排泄されます。
- ・**流行期**……夏~秋に流行が見られます。5月頃より増加し始め、6~7月にピークがあり、8月以降は減少します。



◆かかったらどうすればいいの?

- ・ほとんどの場合、特別な治療は必要なく自然に治りますが、まれに髄膜炎や心筋炎を合併することがあります。元気がなくぐったりしていたり、頭痛や嘔吐、高熱、脱水症状があるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。
- ・口の中を痛がって、水分や食事がとれなくなることがあります。薄味でやわらかいもの、白湯やスポーツ飲料などをこまめにとらせ、脱水にならないようにすることが大切です。

◆予防法は?

- ・手洗いが基本です。特に感染者の排便後の手洗いが重要です。感染している子どものおむつを取り替えたり、鼻水をとったりした後は、しっかり手を洗いましょう。

期 間		2020年 29週		2020年 30週	
		7/13~7/19		7/20~7/26 (最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	→	0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症	→	0	0.00	0	0.00
咽頭結膜熱(プール熱)	→	3	0.19	6	0.38
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	3	0.19	6	0.38
感染性胃腸炎	↓	40	2.50	20	1.25
水痘(みずぼうそう)	→	5	0.31	1	0.06
手足口病	→	4	0.25	5	0.31
伝染性紅斑(りんご病)	→	0	0.00	2	0.13
突発性発しん	→	17	1.06	23	1.44
ヘルパンギーナ	↑	15	0.94	47	2.94
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	→	3	0.19	0	0.00
急性出血性結膜炎	→	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	→	5	1.00	5	1.00
細菌性髄膜炎	→	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	→	1	0.20	1	0.20
マイコプラズマ肺炎	→	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	→	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→	0	0.00	0	0.00